

お得意先様各位

原料価格高騰による価格転嫁のお知らせ

拝啓、貴社におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、表題の件ですが、米の高騰が飲食業界全体を震撼させております。

各メディア等で報道されております通り、買い占め、政府の失態等
様々な要因で高騰しております。

備蓄米の放出は3月下旬からですが、価格は上昇傾向から停滞に向かう
ものの、昨年水準に下がることは考えられないとの業者見解です。

当社 R6.4月からの米の仕入れ価格は昨年の 2.68 倍まで上昇しました。

業者から最近弁当業界でよく売れていると輸入米、冷凍野菜の提案も
多々ございましたが、やはり安心、安全のご提供が一番と、料理人の社長
は食べるまでもなく即却下となりました。

大戸屋、かっぱ寿司等のコロワイドグループも傘下の焼き肉チェーン、
しゃぶしゃぶチェーンで輸入米の使用、松屋、吉野家も輸入米を
利用しております。

輸入量も 2025 年 1 月の輸入のみで昨年の全体量を上回りました。

外食、中食産業で公表しているのは上記のみでしたが、輸入量の増加から
鑑みてかなりの店舗、弁当工場で使用されているものと感じます。

本年新たに、副食除いたご飯のみの値上げでも、

すかいらーくグループは¥30~55、

デニーズ¥40、スシローでも¥10~の値上げ

※握り一貫ご飯量 15g、200g 換算 ¥65

オリジンはおにぎりの g 数を下げて対応。

おなじみのサトウのご飯も1食(200g) ¥189→¥211→¥235
となりました。

副食も大きな値上げ後の昨年からでも油類 120%、調味料 10%、
野菜も少し落ち着きましたが目立つところではキャベツ 289%、
白菜 385%、人参 173%、大根 146%
と上昇しております。

| | 先週の 平均価格 | 2/20価格 | 先週 からの動き | 平年比 |
|---------|-------------|--------|-------------|------|
| だいこん | 117 | 130 | 13 ↗ | 146% |
| にんじん | 205 | 213 | 8 ↗ | 173% |
| はくさい | 161 | 204 | 43 ↗ | 385% |
| キャベツ | 189 | 234 | 45 ↗ | 289% |
| ほうれんそう | 570 | 612 | 42 ↗ | 134% |
| ねぎ | 519 | 699 | 180 ↗ | 193% |
| レタス | 311 | 307 | ▲ 4 ↘ | 139% |
| きゅうり | 509 | 459 | ▲ 50 ↘ | 109% |
| なす | 495 | 465 | ▲ 30 ↘ | 96% |
| トマト(大玉) | 447 | 452 | 5 ↗ | 115% |
| ピーマン | 874 | 875 | 1 ↗ | 106% |
| ばれいしょ | 216 | 218 | 2 ↗ | 120% |
| さといも | 388 | 431 | 43 ↗ | 130% |
| たまねぎ | 173 | 177 | 4 ↗ | 121% |

農林水産省 HP より抜粋

冷凍野菜も高騰はしているものの、当社のように生野菜を仕込んでいる
弁当会社は煽りをまともに受けております。

※キャベツ、白菜、人参、玉ねぎ、ごぼう、大根、もやし等々も基本的
に生使用(仕入れにより冷凍の場合もあります)

当社は材料原価4割を基準に効率化や機械化を推進してまいりましたが、

この高騰では5割に迫る勢いです。

企業努力や少額の価格転嫁では解決できない現状です。

外国産を使う、または国産でも米の質を謎ブレンドに落とし、安価な質の低い冷凍野菜を多用し、全体内容を落とし、品数を減らすのであれば価格の上昇は抑えられますが、それでは他社と差別化ができず、浜の家として提供したい商品ではございません。

商品の値段から通常食品業界の弁当材料原価3割を基準に考えて¥350の弁当だと原価は3割¥105、質の悪い米を使用したとしてご飯に¥50かかればおかずは¥55です。

¥105で出来上がる弁当に何が入っているのかと考えただけでも口に運ぶのを躊躇われると察します。

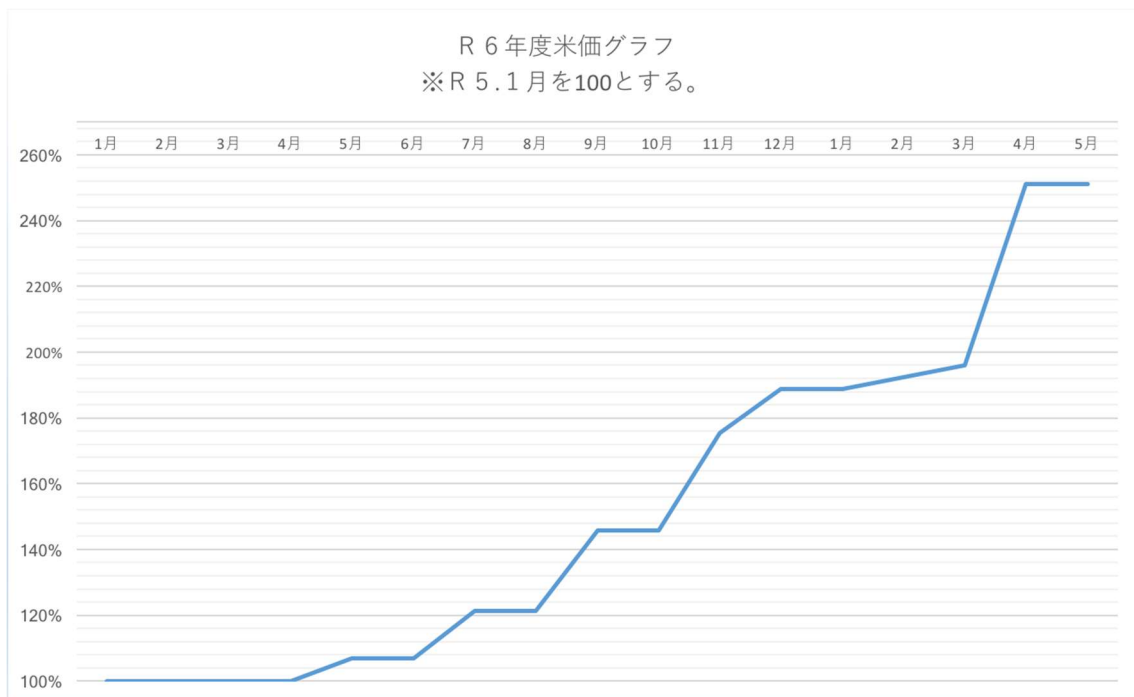
※スーパー、ほか弁等は弁当にかかる物流経費が少ないのでこの説明には当てはまりません。

そして今回の米価格の提示が最高値とは思われますが、現状小売では¥900/kg（5kg¥4,500）を優に超えるものが店頭で並ぶようになり、高値推移が続き¥600/kg（5kg3,000あたりが標準価格になる業者予想）程度に落ち着くにはかなりの時間の経過が必要と考えられます。

米価は昨年までは非常に安価、安定供給で、実際の値段交渉は新米のシーズンのみで従業員30名ほどで数種類の品種を試食後、その年の一番良い品種を指定して使用するという流れでしたが、今年4月より値上がりが始まり、毎月の値段交渉と使用量の精査が慣例となりました。

当社としても品質の良いものを使用分確保することが最重要事項となり、交渉というより米業者の言い値となって現在に至ります。

3月の備蓄米の放出も、価格安定にほんの少しは期待しておりましたが、動きが遅く、見通しも曖昧なまま、無情にも4月からの大幅な価格改定（現状から36%UP）の連絡が米納入業者より届きました。



当社は、仕入れ量も多く安定し、長く取引を続けておりますので、年間使用量は、ほぼ確保できると思われまます（確約ではない）とのことですが、一部弁当業者への米の流通が止まる可能性も示唆されております。

主食を提供できませんでは済まず、そうなるに数倍の値段であろうが、仕入れざるを得なく、価格転嫁が不可能な会社は商品の安全を守れず、廃業の道を進むしかございません。

事実原材料高騰の中、食品業界では、ここ数年老舗含めた会社の廃業が続いております。

関西だけでも大きなところでT屋、T弁当、M給食、H給食、O屋、N給食、他多数が倒産、閉鎖に追い込まれました。

※調味料、油、その他食材も米の値上げ幅に隠れておりますが、今年も2割程度の上昇、15,000~20,000品目の値上げが示唆されております。

安心安全への投資の削減、それだけが理由ではありませんが、人手不足で教育がされていないままでの調理や、設備投資、衛生点検費用を削減したことで起こる事故も全国で毎日のように報告されております。

食材の高騰を転嫁できずに危ない橋を渡り、目先だけの安価な商品で営業を行う会社も多数見受けられますが、衛生管理や従業員教育を行わず、買値を叩き、従業員の皆様やお客様に還元をせず、価格競争やサービス合戦等は消費者を、安全を顧みない浅はかな戦略ではないかと考えております。

つきましては、流通が滞りなく、価格が安定するまでの間

R7年4月1日より

- ・価格上昇を抑えるため、かやくご飯、混ぜご飯等の製造全てを中止
- ・供給のストップを起こさせないため使用量を安定させたく、
1人前ずつの200gにて統一
(現状の量では残されている方も多い)

苦渋の決断ではございますが、使用量を安定させ、廃棄を減らし、品質の良い米の確保、食の安心安全、質の低下を防ぐことを最重要課題とし進めてまいります旨ご了承いただき、何卒ご協力をお願いいたします。

※価格改定の訪問も引き続きご容赦下さい。

誠に勝手なお願いでございますが、何卒事情をお酌み取りの上、今後とも変わらずのご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

敬具

今回の期間限定の2つのお願いは米価の急上昇を受けたものではございますが、新米が出揃い、価格が落ち着く予定の頃にはさらなる賃金の上昇が控えており、安心安全、品質を守るためには商品価格への転嫁のご協力が必須でございます。

量例) サトウの通常ご飯 200g (メーカー標準価格¥235)

茶碗一膳 150g、コンビニおにぎり 105~110g

HAMANOYA .Co.,Ltd.

「食」と「便利」をお届け